



『ワイン用ブドウの栽培』

西原区 岡村 英昭



私がかこ大里地区(西原)でワイン用ブドウの契約栽培を始めて今年で七年目。現在、両親から引継いだ畑等で白ワイン種(シャルドネ、信濃リースリング)、赤ワイン種(メルロ、浅間メルロ)を栽培しています。

一九七三年(昭和四十八年)マンズワイン小諸ワイナリーが設立、諸・西原・後平地区の契約栽培の畑に、冷涼な氣候に適した品種「善光寺ブドウ(龍眼)」が植えられ、本

格的にワイン用ブドウの栽培が始まりました。また、契約栽培者が会員となり「大里加工ブドウ部会」を発足、マンズワインやJ.Aと協同で事業を進めてきました。一九八八年(昭和六十二年)十月末、収穫初日の晩に降った大雪でブドウ棚(平棚)の多くが倒壊する災害に見舞われました。これを転機に、契約栽培の畑が減少しましたが、倒壊を免れた一部畑を除き、ブドウ品種を欧州系品種へ、棚は垣根方式へと短期間で切替えが行われ、現在のブドウ畑の姿になっています。

今の時期ブドウ畑では、今年最初の作業である剪定作業が始まっています。新芽を数芽残して枝を短く切り落とす「短梢剪定」、木の幹に近く元気に伸びた枝を数本残す「長梢剪定」と二通りの方法があり、品種や枝の状態などを勘案しながら行います。剪定が終わると剪定した枝の処理、樹皮の皮剥きや棚の補修等こ

れから始まる本格的な作業に備えます。四月下旬、越冬害虫に対する最初の防除作業が始まります。

五月上旬にはブドウが芽吹き、枝の伸びと共に幼いブドウの房が現れます。そして開花、幼果期を経て成熟期へと向かいます。この成長過程に合わせて、芽掻き・誘引・摘芯脇芽掻き・房づくり・畑の草刈り・防除作業等を繰り返し進めていきます。

小諸市を含む八市町村による千曲川ワインバレー特区認定に伴い、今後ワイン栽培等が盛んになってきます。良質なブドウ造りに向け、従来にも増して思考と実践を重ねていきたいと思えます。



俳句

やまなみ句会

● 大波の綻ぶ先に秋の佐渡 榊原 恵

● 今朝の駅マスク目立ちて出勤時 阿部 和

● 冬の空足早にみな背を丸め 土屋 武子

● 花八手軍鶏は蹴爪を研ぎすまし 塩川 正

● おのずからマスク外してお客待つ 荻原 君江

● 紫苑咲くこの地に住みて六十年 小栗 富美

短歌

土笛小諸短歌会

● 閑上は家一軒もなき荒野原 松村 泰子

● 華やぎし花萎えたれど陽に風に あいたき人ら集うガーデン 土屋 たけし

● 夕餉終へ厨片付け障りなく 老の二人の一日が終る 市川 かづ

● 新幹線のトンネルぬければ北陸の 田の面は緑のひつじ穂萌ゆる 井出 八重子

● 雨上り神社にそろいて成長願う 蝶ネクタイの小さき紳士 小林 りつ子

● 収穫のすみし田んぼのここかしこ 薫然す煙に山里けむる 井出 宣子